

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年3月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2274202254
法人名	株式会社イッセイ
事業所名	グループホーム平和
所在地 (電話番号)	静岡市清水区西久保1丁目13-26 (電話) 054-367-7805
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年12月8日

## 【情報提供票より】(20年11月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	20 人
利用定員数計	18 人
	常勤 10 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 17.6 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設(単独)	新築(改築)
建物構造	木造枠組壁工法	
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	67,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1		名	要介護2		2 名	
要介護3		6 名	要介護4		6 名	
要介護5		4 名	要支援2		名	
年齢	平均	83, 9 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	清水厚生病院・柴田内科医院・かとう整形外科医院・吉永医院・志茂野歯科医院
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平屋づくりの2ユニットのホームで、買い物に便利な市街地に位置する。室内はバリアフリー構造で、天窓から光がそそぎ、明るく過ごしやすい環境にある。その人らしい生活を支援していくことを理念とし、開設して3年目を迎え、地域に根づいたホームとなっている。利用者は身体機能が著しく低下し、要介護度も重度化の傾向であるが、職員は適切な支援に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員は評価結果を確認し、介護計画の定期的な見直しに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組み、管理者が報告書をまとめた。職員全員がサービスの質の向上につなげる機会と捉えて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	公民館で開催し、民生委員、地区社会福祉協議会委員、S型デイサービス代表者、ボランティア等が参加している。利用者の状況や関係機関等との連携について報告し、参加者からの意見をいただいている。また、会議の内容は、議事録にまとめ、ミーティングで報告し、職員間で共有している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	金銭報告と併せて、日々の介護記録を毎月家族へ送付し、家族が不安感を持たぬよう努めている。苦情のあった時は速やかに対応し、信頼関係につなげている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	自治会活動に積極的に参加し、平成20年度は班長を引き受け、利用者と共に回覧板や自治会費の集金等の活動を積極的に行っている。また、利用者と一緒近くの商店やスーパー等へ買い物に行き、地域住民と交流する機会となっている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症になっても、住み慣れた町で最期まで人として暮らしたい」という理念を掲げている。地域との関わりを積極的に行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員に対して利用者の残存能力を活かしていく大切さを説明し、理念の実践に向けて取り組みを行っている。また、職員採用時は、理念の共有に向けての内部研修を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成20年度は、自治会の班長を引き受け、利用者と一緒に回覧板を配ったり、集金活動等を行い、近隣住民とも顔見知りになり、利用者・職員が地域の住民の一員として受け入れられてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全体で評価を行い、管理者が報告書をまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の公民館で開催し、民生委員、地区社会福祉協議会委員、S型デイサービス代表者、ボランティア、職員等が参加している。利用状況を報告し、委員からアドバイスを受けている。会議の内容はミーティングで報告し、職員間で共有している。	○	市担当者や地域包括支援センター職員の参加を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例や運営の疑問点については、市担当者と相談している。また、月に1回、介護相談員を受け入れており、第三者の意見を参考にしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、利用者の健康状態、日々の暮らしぶり等の記録をまとめて、金銭管理と一緒に送付している。また家族が来訪する際、その都度報告をしている。	○	家族会を設置し、家族が自由な意見を出せる場の確保を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、苦情が申し立てられたときは、迅速かつ適切に対応する措置が講じられている。また、運営についての家族アンケート結果については、出された意見を整理し、家族へ文書で報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員から離職の希望があったときは直に話を聞いて、離職を最小限に抑える努力をしているが、個人的な理由での離職が多い傾向がある。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修への職員参加については、計画的に実施し、外部研修には公休で参加できるシステムがある。今後、薬剤師協会へ講師を依頼し、薬の誤飲防止や副作用の知識を深めるための勉強会を予定している。なお、管理者が看護師であり、服薬管理等の指導を随時行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括ケア会議へ出席し、同業者とサービス活動状況などの情報交換をしている。	○	管理者だけでなく、全職員が同業者間との交流の機会を持ち、サービスの向上へつなげていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを受けられるよう、利用者・家族のホーム見学時には、安全面への対応について、詳細に説明している。平成20年度は、在宅からの入居はなく、介護老人保健施設や他グループホームから入居するケースが多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何度も食事のメニューを聞く利用者に対しては、メニュー表を見せながら説明する等、丁寧な対応を心がけている。また、管理者は職員に不適切な対応があった場合は、その都度指導を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの身体的特徴や生活習慣等を把握し、利用者の要望に沿った支援が行われるように努めている。把握した情報については、引き継ぎノートに記録して職員間で共有している。	○	重度の認知症や身体面の不自由等で、意向を表現することが難しい利用者に対しても、表情や動作の観察を十分にに行い、ニーズの把握に努め、より良いケアが提供されることを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回の担当者会議に利用者が参加している。介護計画作成担当者は、家族の要望や管理者・職員の意見を取りまとめ、介護計画に反映するように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度、定期的な介護計画の見直しを行っている。また、状態の変化があれば、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望により、訪問リハビリ、訪問理美容、定期健診の付き添い等、柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に沿って、馴染みの医師による継続的な支援が得られるよう配慮している。本人から希望がなかったり、ホームでのターミナルケアを希望している場合は、24時間対応の協力医をかかりつけ医としている。定期的な受診は職員が同行し、総合病院への受診が必要となった場合は、家族へ付き添いをお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	5人のターミナルケアの実績があり、多くの家族は、ホームが終の住み家とすることを希望し、同意している。看護師でもある管理者や看取りの経験がある職員が中心となって対応方法を話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳と人格を尊重した言葉かけを心がけており、書類も棚の中や目の届かない所で管理している。トイレの使用時にドアを閉めたり、居室ドアに暖簾をかけたり等、配慮している。また、入浴中に暴言を言う利用者があるため、家族に了解を得て入浴中、鍵をかけており、他の家族へも鍵をかける意味を説明している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者から何かをしたいという希望もなく、1日が終わることが多い。徘徊癖のある利用者があるため、職員は対応に追われているが、近くのスーパーや魚屋への買い物、散歩など外出支援を行っている。	○	認知症が進行しても、利用者のわずかな表現を見逃すことなく、その人の思いを汲み取った支援が行われることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族からも情報を得て、利用者が好む献立をつくるよう努めている。利用者も一緒に買い物に行ったり、仕度から配膳・片付け等を手伝っている。また、月曜日の昼は「カレー」・日曜日の夜は「すし」等の人気メニューがあり、利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	車椅子の利用者が多くなったため、車椅子対応の椅子を購入し、シャワー浴と足浴を併用した入浴方法を行っている。3時から夕食前に入浴が多いが、一番風呂の希望や夕食後の夜間入浴希望等、職員の勤務体制に配慮しながら、利用者の希望に沿って支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が昔歌ったことがある曲を歌うなどの音楽療法を取り入れている。また、集団行動が得意でない利用者へは、毎日買い物の付き添い支援を行っている。また、S型デイサービスに出かけ、地域のお年寄りと一緒に過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩に行ったり、スーパー、ドラックストア、魚屋等へ買い物に出かけている。特に港祭りや七夕祭り等の行事への参加やレストランでの食事は利用者の楽しみとなっている。また、年1回の遠足は、全員で出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を十分理解しており、日中は施錠していない。玄関にチャイムをつけて、利用者が近付くと鳴る仕組みになっており、職員がさりげなく見守るよう努めている。また、徘徊癖のある利用者が外へ出たいときは、職員が同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者全員が参加し、避難訓練を実施している。その際、消防署の協力を得て三角巾を使った応急手当、消化器の使い方、避難経路の確認などの訓練を受けている。	○	消防署や自治会を通して地域住民にホームでの防災訓練への参加を依頼し、効果的な訓練が実施されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一人ひとりの栄養摂取量や水分量に合わせ献立をつくっている。水分は主に食事・おやつ時の味噌汁やお茶で摂取しており、不足時はポカリスエット等で補っている。また、体重測定と血液検査で健康状態を管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、オール床暖房で暖かく、各居室や共有空間には天窓があり、日が当たるようになっている。日差しが強いときは、ブラインドをリモコン操作で調節している。また、共有空間には、大きな楕円型のテーブルと長椅子やソファセットがあり、至るところに絵の額が掛けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内に換気口があり、外から綺麗な空気を入れて24時間換気している。居室の入り口は、利用者の住所と名前が記された木の表札が掛けられている。また、利用者の好みによって、使い慣れた小物家具が置いてあったり、床にマットレスやカーペットを敷いている。		